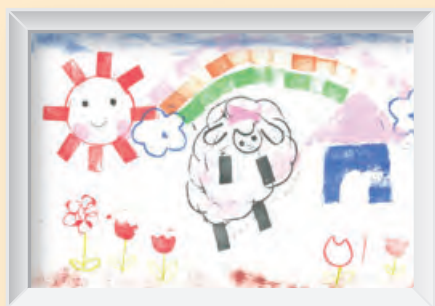
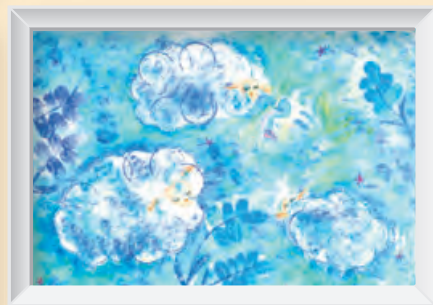


ニッケグループ
環境データ集

2014



“声”を明日につなげる



NIKKE
Group

Contents

トップメッセージ……………02

特集

**国内有数の大型メガソーラー
「ニッケまちなか発電所明石土山」が稼働……………03**

環境経営の取り組み……………04
国内製造部門での環境保全活動……………07
ショッピングセンター部門での環境保全活動……………17
ニッケグループ各社の取り組み……………18
サイト別パフォーマンスデータ……………23
環境報告ガイドライン対照表……………25

編集方針

本データ集は、ニッケグループの環境活動について、2013年度の取り組みと実績、今後の計画を報告するものです。環境パフォーマンスデータは、国内の衣料繊維製造部門・資材製造部門とショッピングセンター部門、オフィス部門を報告対象範囲としています。報告書またはデータ集の発行は本年度で10回目となります。また、冊子を廃止して当社のウェブサイトのみ掲載としています。

報告対象組織

● **環境マネジメントおよび環境保全活動の取り組み**
ニッケグループとしての取り組みと各社の活動を報告します。

● **環境パフォーマンスデータ**

日本毛織株式会社

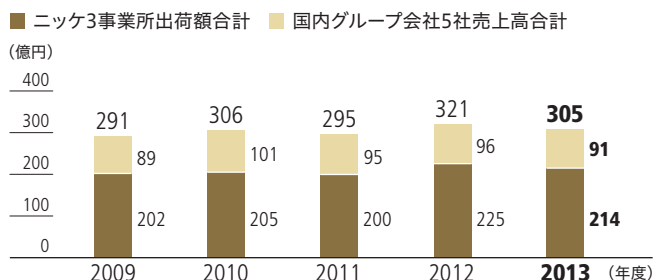
製造事業所3カ所：印南工場、一宮事業所、岐阜工場
オフィス8カ所：本社、神戸本店、東京支社、北海道営業所、仙台営業所、名古屋営業所、広島営業所、九州営業所
ショッピングセンター2カ所：ニッケコルトンプラザ、ニッケパークタウン

国内グループ会社(5社)

尾州ウール株式会社、大成毛織株式会社、金屋ニット株式会社、アンビック株式会社、株式会社ゴーセン

連結対象組織における報告対象組織の補捉率は約60%です。これは国内エネルギーデータをもとに、事業規模から推測したのですが、補捉率の精度向上のため、今後、より広い範囲でエネルギーデータの収集に努めます。

● **パフォーマンスデータにおける金額原単位の指標**



報告対象期間

2013年度(2012年12月1日～2013年11月30日)

期間中に発生した重要な変化

グローバルな梳毛生産体制のより一層の高品質化・最適化を進めるため、一宮事業所の梳毛工程をマレーシアの南海ニッケ・トレガンヌ社に統合しました。

発行日、前回発行日、次回発行日

発行日：2014年2月26日
前回発行日：2013年2月26日
次回発行予定：2015年2月

参考にしたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)

作成部署・連絡先

ニッケ 研究開発センター 環境・知財管理室
兵庫県加古川市米田町船頭440
Tel. 079-431-2106 Fax. 079-431-2070

主な企業情報

企業情報：会社案内、有価証券報告書、ニッケレポート(事業報告書)、IR資料、環境データ集
主な企業情報に関するお問い合わせ先：
ニッケ 経営戦略センター 総務法務広報室
Tel. 06-6205-6600 Fax. 06-6205-6684
E-mail：webmaster@nikke.co.jp
企業情報に関するご意見・ご質問は、連絡先をお聞きした上で関係部署から返答いたします(返答は後日になる場合もあります)。

【ご注意】

2012年度以前のデータも見直し修正しましたので、昨年報告のデータと異なる数値があります。新しい情報は随時更新します。

【免責事項】

本報告書には、ニッケおよびニッケグループの将来に関する予測・予想・計画も記載しています。これらは記述した時点で入手できた情報に基づいたものであり、将来の事業活動の結果とは異なったものになる可能性があります。

トップメッセージ



「“声”を明日につなげる」を掲げて
優先課題である地球環境の保全に
グループ全体で取り組んでいきます

ニッケは1896年の創業以来、環境にやさしい素材を社会に提供してきました。そして、“人と地球に「やさしく、あったかい」企業グループとして、わたしたちは情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”を経営理念に掲げて、人間家族や地域社会への貢献にも力を注いでいます。

「21世紀は環境の世紀」と言われ、持続可能な発展を考えると、地球温暖化の防止・循環型社会の構築・生物多様性の保全など環境保全は重要な活動となっています。かけがえない地球環境を健全な状態で次世代に引き継ぐことは、私たちに課せられた使命であり、責任であると考えています。

そのため、地球環境保全を企業経営における優先課題と位置づけ、「ニッケグループ地球環境委員会」を組織して、省エネルギー・CO₂排出量の削減・廃棄物最終処分量の削減など5項目の数値目標を掲げてグループ全体で地球環境の保全に取り組んでいます。

本データ集は2013年度に推進したニッケグループの環境への取り組みについてまとめたものです。2013年度は、大規模太陽光発電所を開設し、約17MWの発電設備が稼働しています。クリーンで枯渇することのない再生可能エネルギーの導入拡大を、地球環境保全における有効な施策と捉え、2014年度もその拡大に積極的に取り組んでいく所存です。

2014年度は「“声”を明日につなげる」を新スローガンとして、社員一人ひとりの取り組みを未来の地球環境へとつなげていきたいと考えています。

本データ集をご覧いただき、ニッケの取り組みを理解していただくとともに皆様からご意見、ご指摘をいただければ幸いです。

2014年2月

ニッケグループ代表
取締役社長

佐藤光由

経営理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」
企業グループとして、わたしたちは
情熱と誇りをもってチャレンジして行きます。”

- ウールで培った技術の追求と環境への配慮により、新しい価値を創造します。
- 心を込めて人間家族や地域社会に貢献し、たしかな生活文化を創造します。

経営方針

- 社員の幸せを追求し、希望と生きがいの持てる企業グループを目指します。
- 企業価値の最大化を通して、顧客や株主との永続的な信頼関係を築きます。
- 研究開発を強化し、品質と感性・革新性に根ざしたNo.1の商品とサービスを提供します。
- 変化をチャンスと捉え、既存事業の改革と新規事業の開拓に挑戦します。
- 人材開発を重視し、各分野におけるプロフェッショナルとして行動します。

特集

国内有数の大型メガソーラー 「ニッケまちなか発電所明石土山」が稼働



太陽光発電を全国に拡げて 売電事業をスタートしました

ニッケグループでは、2012年度から「ニッケまちなか発電所」と名づけた太陽光発電システムの導入・売電事業を進めてきました。2012年9月末に閉鎖した「ニッケゴルフ倶楽部土山コース」の跡地活用として取り組んできた「ニッケまちなか発電所明石土山」の第1期工事が完了し、2013年10月1日に稼働を開始。2014年2月には、第2期工事も完成し、全面稼働を予定しています。当プロジェクトは、敷地面積221,685.06m²(67,059.73坪)に太陽光パネル54,852枚を設置し、16,817kWの発電出力を誇る西日本でも有数の大規模太陽光発電所です。

現在、当発電所を含め11カ所の拠点において太陽光発電システムの導入を進めており、今後も全国の事業拠点において順次、発電所の設置を検討していきます。

ニッケまちなか発電所 明石土山の環境効果

一般家庭 **3,850** 世帯分 **CO₂** 削減量 **5,733** t-CO₂

ニッケまちなか発電所を順次、全国に拡げていきます



左記以外 **1,113** kW

- ・ニッケまちなか発電所 加古川印南
- ・ニッケまちなか発電所 加古川I
- ・ニッケまちなか発電所 兵庫東条 (2014年開業予定)

ニッケまちなか発電所 明石土山

総出力 **16,817** kW

関西地区
17,930 kW



ニッケまちなか発電所 一宮IV (大成毛織)

総出力 **439** kW

中部地区
1,079 kW

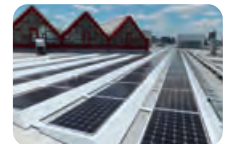
左記以外 **640** kW

- ・ニッケまちなか発電所 一宮I
- ・ニッケまちなか発電所 一宮II
- ・ニッケまちなか発電所 一宮III (2014年開業予定)
- ・ニッケまちなか発電所 一宮V
- ・ニッケまちなか発電所 稲沢陸田

関東地区

693 kW

ニッケまちなか発電所 市川 (2014年開業予定)



“癒しの空間”と“除草”のために「羊」を放牧しています



「ニッケまちなか発電所明石土山」の一部の場所では、3頭の羊を放牧しています。「う～るん」「う～りん」「う～らん」と名づけたこの羊は、太陽光パネルが広がる無機質な空間に“癒し”の効果を与えるとともに、除草対策への効果も期待されています。



環境経営の取り組み

環境に関する基本姿勢

豊かな地球環境を次世代に引き継ぐために、地球環境保全を企業経営における優先課題と位置づけています。

ニッケグループ環境基本理念

“人と地球に「やさしく、あったかい」
企業グループとして、
わたしたちは情熱と誇りをもって
チャレンジして行きます。”

ニッケグループは、この経営理念のもと、「環境への配慮と高い企業倫理により社会から信頼される企業グループを指向すること」を環境基本方針としています。とりわけ地球環境の保全を重要な課題と捉え、豊かで住みよい社会の実現に向けた企業活動に努めるため、3つの行動方針と4つの重点施策を定めています。そして、研究開発から製造、技術、販売、流通に至るあらゆる分野において、グループ全従業員が積極的に環境保全活動に取り組んでいきます。

行動方針

環境保全活動の推進	CO ₂ 排出量削減、省資源、環境負荷の低減にグループ全従業員で取り組みます。
環境マネジメントシステムの確立	ISO14001の認証を製造事業所3カ所およびグループ会社7社が取得しています。この環境マネジメントシステムを活用することで、継続可能な環境改善に努めます。
環境規制の遵守	環境関連法規および環境保全協定などを遵守するとともに、排出基準に自主規制値を設定し、厳しい規制管理を図ります。

重点施策

- 環境配慮に対するグループ内の意識徹底
- CO₂排出量削減、省エネルギー、省資源、廃棄物3Rの推進
- 環境問題に対応した素材と生産技術の開発
- 環境関連情報の公開および地域社会との共生

環境マネジメント

「ニッケグループ地球環境委員会」のもと、「PDCAサイクル」を重視した環境マネジメントシステムを継続的に運用していくことによって、環境保全活動を推進しています。

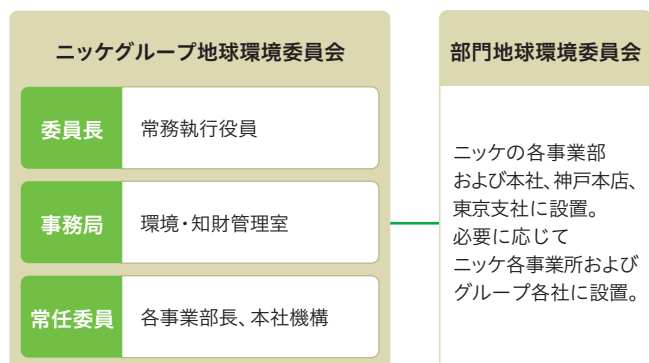
環境マネジメントシステム

ニッケグループでは、グループ各社が同じ目標のもとで、環境保全活動に取り組む体制を構築しています。「ニッケグループ地球環境委員会」を設けて基本方針と施策を決定するとともに、各事業部・本社・神戸本店・東京支社などに設置

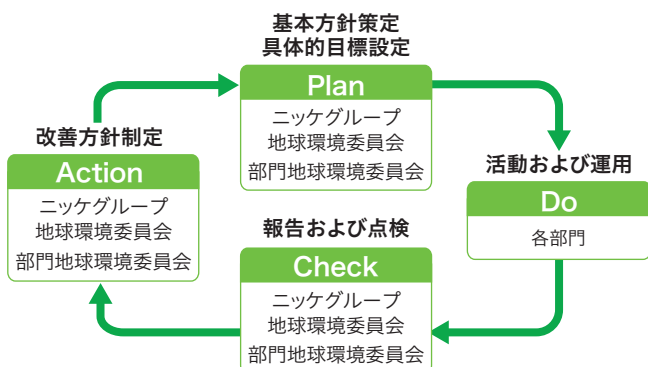
した部門地球環境委員会で具体的な計画を立案して実行する体制としています。

環境保全活動の推進にあたっては、下図のように“PDCAサイクル”を繰り返すことで活動の定着と強化を図っています。

● 環境マネジメント体制



● 環境保全活動推進フロー



環境経営の取り組み

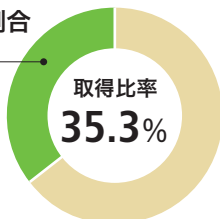
ISO14001 認証取得状況

ニッケグループでは、製造事業所3カ所およびグループ会社7社で、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001認証を取得しています。

2013年度にISO14001の認証を取得したグループ会社はありません。

● ニッケグループ全社員に占める ISO14001認証取得事業所従業員の割合

認証取得従業員数:1,623名※
グループ従業員数:4,604名※
※非連結グループ会社を含む



● ISO14001 認証取得事業所一覧(2013年11月末時点)

事業所	登録年月	登録番号
印南工場	2000年11月	JMAQA-E156
アカツキ商事株式会社	2001年9月	JSAE419
岐阜工場	2001年10月	JMAQA-E234
アンビック株式会社	2001年11月	JQA-EM1898
佐藤産業株式会社	2001年11月	JEO129E
株式会社ナカヒロ	2002年6月	E465
上海高織制紐有限公司	2004年3月	01 104 031654
株式会社ニッケ機械製作所	2004年11月	1664297
株式会社ゴーセン	2005年4月	JQA-EM4701
一宮事業所	2007年12月	JMAQA-E724

環境会計

環境会計を導入し、環境保全の取り組みの把握に努めています。

環境対策投資は公害防止設備や省エネ・廃棄物減量設備への投資を集計したもので、下記データの通り年度により変動はしますが、中長期計画に掲げて継続的に取り組んでいます。

公害防止コストは年間管理計画の中で規定された大気・排水分析や機能維持のための保全費用を集計したものです。

● 環境会計データ

(千円)

	2009	2010	2011	2012	2013
環境対策投資額	155,354	191,123	135,959	123,496	3,471,461※
公害防止コスト	173,492	168,843	176,130	187,839	183,317
汚染負荷量賦課金	4,718	3,825	3,049	2,978	2,909

※ ニッケまちなか発電所への投資額を含む。

環境教育

全社員を対象として毎年、環境教育を実施しています。

たとえば、ニッケ大阪ビルでは環境教育として「廃棄物分別回収」に着眼し、廃棄物分別回収のための対策・啓蒙を実施しました。各職場へ分別回収ボックス設置・ゴミ箱への回収分類表示を実施し、さらに壁やパーティションに回収方法を掲示することで意識向上を図りました。分別回収の意義・効果を理解し、地球環境保護・改善につながるよう個人レベルで努めています。

環境監査と結果

ISO14001 認証取得事業所では、年1回外部監査機関による審査を受けています。2013年度はニッケ3事業所合計で不適合0件、観察事項19件の指摘がありましたが、全体的には良好との評価を受けています。またニッケの3事業所で合計80名の内部監査員がおり、年1回、定期的に内部監査を実施しています。2013年度は不適合4件、観察事項24件が報告されました。

これら監査の結果については、マネジメントレビューで対策内容を確認・決定して、マニュアルや規定書を改訂する場合もあります。

環境リスク管理

ニッケでは、環境マネジメントシステムに基づき、環境に関する緊急事態として、汚水の流出、薬品・油剤の流出、PCBの流出、毒劇物の盗難、火災の発生、都市ガスの漏れなどを想定しており、事業所ごとにリスクを規定しています。

緊急時の対応手順は作業標準などに規定し、社員に徹底するとともに、定期的な訓練を実施しています。



排水配管破損時の対応訓練



PCB流出時の対応訓練

環境経営の取り組み

環境影響の監視・測定

ニッケの3事業所では、ボイラや排水処理設備など環境に影響を及ぼす設備について、環境測定機器の定期校正、ボイラ排ガスの測定、排水の分析などの日常点検および定期点検を実施しています。また、所在する地域の排水水質規制を上回る自主規制値を設定し、厳しく管理しています。

各事業所では、敷地の境界で騒音などを定期的に測定し、騒音が心配される場合は吸音材や遮音材を貼り付け、周辺の生活環境の保全に努めています。

2013年度は、印南工場における(株)ニッケ機械製作所の移転工事に伴い、近隣住民から「窓が振動する」という苦情がありました。原因は、重機で残土、コンクリート、レンガなどを分別する際にバケットを動かすことによる振動でした。振動対策として、作業区域を近隣住宅から遠ざけ、バケットを低速で動かすことで改善されました。対策実施後は、苦情はきておりません。

法令遵守状況

2013年度においても、環境に関して官公庁から指導および罰則を受けておりません。なお、過去3年間も同様に重大な違反・罰則・訴訟はありません。

環境に配慮した不動産開発

印南工場の敷地内に(株)ニッケ機械製作所の工場を新設しました。照明器具にはLEDランプを積極的に採用し、太陽光を利用した「スカイライトチューブ」を設置し、環境に配慮しました。

環境コミュニケーション

兵庫県加古川市のグループ企業と地域の皆様との相互理解を深めるために、年2回、周辺の町内会の代表と地域連絡会を開催しています。連絡会では地域の情報交換や各グループ企業の状況報告をするとともに、地域に根ざした企業グループとして地域をサポートできるような体制の構築に取り組んでいます。

また、印南工場と兵庫県、加古川市の間で環境保全協定を締結しています。加古川市内の8社の企業も同様に協定を締結しており、年1回、企業の事業所周辺住民の代表の方などを交えて協議会を開催し、事業所ごとに環境情報を報告しています。

環境保全活動のあゆみ

1993	●「地球環境委員会」を設置
1997	●ビジネスユニフォームでの「エコマーク」第1号取得 ●PETボトルリサイクル繊維を使用した「エコロジア企画」商品を発売開始
1998	●ワールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築
1999	●「環境自主行動計画」を策定 ●「地球環境保全中期計画」を策定開始
2000	●印南工場でISO14001を認証取得
2001	●岐阜工場でISO14001を認証取得 ●アンピック(株)でISO14001を認証取得 ●アカツキ商事(株)でISO14001を認証取得 ●佐藤産業(株)でISO14001を認証取得
2002	●(株)ナカヒロでISO14001を認証取得 ●印南工場にてNEDOとの共同研究で太陽光発電システムの実証実験を実施
2004	●(株)ニッケ機械製作所でISO14001認証取得 ●上海高織制紐有限公司でISO14001を認証取得
2005	●環境報告書発行開始 ●(株)ゴーセンでISO14001を認証取得
2007	●一宮事業所でISO14001を認証取得
2012	●太陽光発電システムの1号拠点を稼働(ニッケパークタウン) ●「環境データ集」として、冊子を廃止しウェブサイトのみに変更
2013	●鶯殿ヨシ原の保全活動とバイオ燃料化事業をサポート ●ニッケまちなか発電所明石土山にて売電事業を開始

生物多様性の保全

大阪府高槻市鶯殿のヨシは、淀川水系で最大のヨシ原に生育し、国内唯一の“筆築の蘆舌”などに用いられ、日本古来の伝統芸能である雅楽を支えてきました。近年では、新たな活用法としてヨシをバイオ燃料化する取り組みが行われています。

ニッケグループでは、地球環境保全に寄与したい考えから、鶯殿ヨシ原の保全活動とバイオ燃料化事業をサポートしています。



鶯殿のヨシ原

国内製造部門での環境保全活動

環境保全中期計画

ニッケグループ国内製造部門は、2012年12月に策定した「環境保全計画(2015年度)」の達成に向けて全社が一丸となって各種施策に取り組みました。

● 2013年度の目標と実績

目的	内容	2013年度の目標	2013年度の実績	自己評価	2014年度の目標	2015年度の目標 (中長期目標)
省エネルギー	工場出荷額当たり原単位 2012年度比	99.0%以下	98.4%		2012年度比 98.0%以下	2012年度比 97.0%以下
CO2排出量の削減	工場出荷額当たり原単位 2012年度比	99.0%以下	98.3%		2012年度比 98.0%以下	2012年度比 97.0%以下
廃棄物最終処分量の削減	工場出荷額当たり原単位 2012年度比	99.0%以下	122.2%	×	2012年度比 98.0%以下	2012年度比 97.0%以下
PRTR法対象物質 使用量の削減 <small>※ 右記の年度は、行政への報告、 集計期間(4月～翌年3月)に対応</small>	工場出荷額当たり原単位 2011年度比	99.0%以下	102.9%	×	2011年度比 98.0%以下	2011年度比 97.0%以下
グリーン購入の促進 <small>※ 製造事業所3カ所および 本社・東京支社での取り組み</small>	グリーン購入品比率	95.0%以上	93.5%		95.0%以上	95.0%以上

自己評価の基準 目標を十分に上まわって達成した 目標を達成した 目標は達成できなかったが目標に近づいた × 目標に向けた改善ができなかった

報告対象事業所

国内製造部門：■ 製造事業所3カ所 ● オフィス8カ所 ▲ 国内グループ会社(5社)
ショッピングセンター部門：◆ ショッピングセンター2カ所



国内製造部門での環境保全活動

環境負荷の全体像

原材料やエネルギーなどの投入(インプット)、CO₂や廃棄物などの排出(アウトプット)を把握し、可能な限り環境負荷を低減するように努めています。

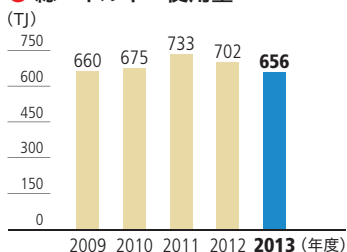
INPUT



エネルギー

電気 …………… 36,839MWh
都市ガス …………… 6,648千m³
A重油 …………… 47kL

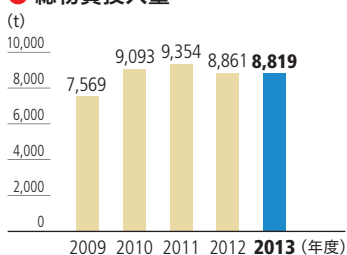
● 総エネルギー使用量



原材料

羊毛 …………… 3,331t
合成繊維 …………… 3,386t
染料・薬剤 …………… 2,102t

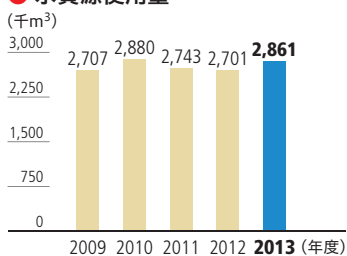
● 総物質投入量



水資源

上水 …………… 40.9千m³
工業用水 …………… 431千m³
地下水 …………… 2,389千m³

● 水資源使用量



調達

オーストラリア
などから羊毛を
調達

設計・商品開発

製造



染色

トップ染
糸の原料となる
トップを染色



紡績

精紡
精紡機で
糸にする



製織

織絨
織機で布に
織り上げる



整理

乾燥
洗浄して汚れを
落とし乾燥

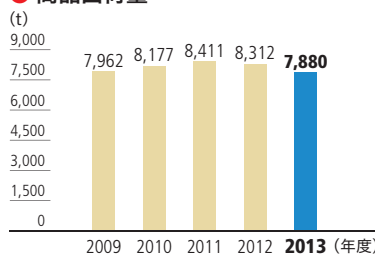


検査

検反
反物の品質を
厳しく検査

商品出荷量 …………… 7,880t

● 商品出荷量



流通

● 商社
● 販売店
● アパレル
メーカー



ユーザー

● 個人
● 学校
● 企業
● 官公庁

リサイクル

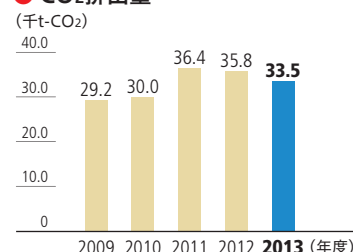
OUTPUT



大気への排出

CO₂ …………… 33.5千t-CO₂
SO_x …………… 0.02t
NO_x …………… 4.86t
ばいじん …………… 0.177t

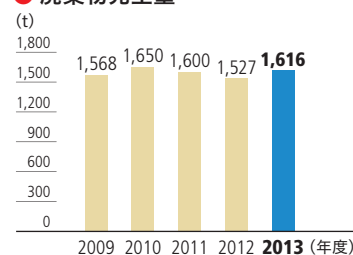
● CO₂排出量



リサイクルと廃棄

廃棄物発生量 …………… 1,616t
リサイクル量 …………… 1,303t
最終処分量 …………… 313t

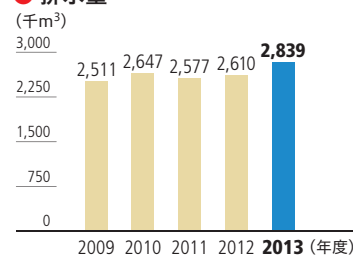
● 廃棄物発生量



水系への排出

排水量 …………… 2,839千m³
COD負荷量 …………… 36.9t
BOD負荷量 …………… 16.0t
SS負荷量 …………… 13.0t

● 排水量



国内製造部門での環境保全活動

地球温暖化防止の取り組み

省エネ型生産設備の活用などの諸施策を実行し、エネルギー原単位とCO₂排出量原単位の改善に取り組みました。今後は、省エネ型設備の積極的な導入や工程管理条件の見直しなどに取り組んでいきます。

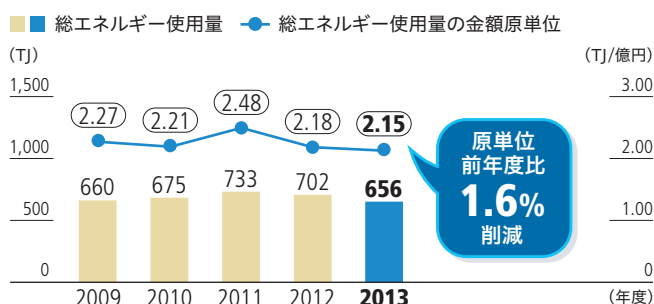
省エネルギー活動の推進

総エネルギー使用量原単位は「2012年度比99.0%以下」の目標に対して、実績は「98.4%」と目標を達成できました。省エネ機器の導入や生産設備の効率的な運転を推進したことに加え、保温カバーの取り付けや蒸気回収など無駄なエネルギーの使用削減に取り組みました。

また省エネ会議や省エネパトロールなど、社員の省エネ意識を高めるための啓蒙活動も継続しています。

夏期の電力ひっ迫期間には、冷房の設定温度を1℃上げるほか、デマンド制御設備を活用し、各事業所で想定している最大使用電力を超えそうなときには、空調設備を停止するなど、地道な取り組みを重ねました。これによって、社員の省エネに対する意識は格段に向上しました。

● 総エネルギー使用量と原単位



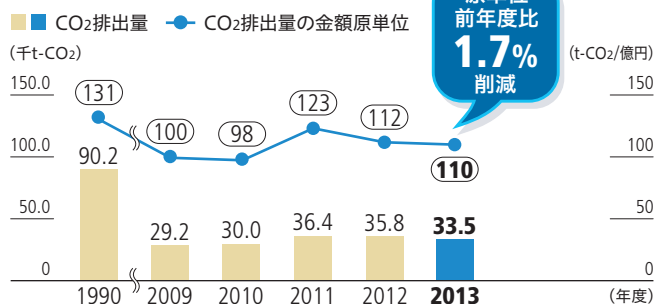
温室効果ガス排出量の削減

CO₂排出量原単位は「2012年度比99.0%以下」の目標に対して、実績は「98.3%」と目標を達成できました。

この主な要因は、各製造事業所での省エネ対策により総エネルギー使用量原単位を削減できたためです。

CO₂排出量は、京都議定書が定める基準年1990年と比べて国内製造部門では62.9%減、ショッピングセンター部門を加えると51.7%減となりました。

● CO₂排出量と原単位



注) CO₂排出係数は、2013年度の係数が未発表のため、2012年度実績の算出には2012年度の係数を使用しています。また、2012年度実績は、2012年度の係数が発表されたため修正し、昨年報告したデータと数値が異なります。

輸送でのCO₂排出量の削減

ニッケグループでは輸送効率を向上させる取り組みを推進しています。

出荷製品や原材料の輸送距離を短縮するとともに、効率よい輸送でトラック便数を減少させるなどの取り組みに努めています。

(株)ニッケ物流は、2012年12月にGマーク認定を受け

ました(Gマーク認定はトラック運送事業者の安全性を評価・認定する制度です)。

2013年8月からは、グリーン・エコプロジェクトに取り組んでいます。エコドライブを推進し、CO₂排出量の削減に努めています。

国内製造部門での環境保全活動

省資源・リサイクルの取り組み

高リサイクル率を維持しつつ、廃棄物発生量を減らす取り組みをしています。

総物質投入量の低減

製造部門の主な原材料には、ウールを中心とした天然繊維、ポリエステルを中心とした合成繊維、染料・薬剤があります。

これら原材料の投入量を低減させるために、製造工程では歩留まりを高く維持することや不良率低減に継続的に取り組んでいます。

水資源使用量の削減

使用する水資源には上水・工業用水・地下水があります。

2013年度の水資源使用量は2012年度比で5.9%増加し、原単位は11.4%増加しました。これは、用水配管の老朽化により、漏水が発生していたためです。補修は完了し、漏水は解消しています。

今後は、配管システムの点検、改修を強化し、水資源使用量の削減に努めます。

廃棄物の削減

廃棄物最終処分量原単位は「2012年度比99.0%以下」の目標に対して、実績は「122.2%」と大幅に増加しました。

これは、2013年度に(株)ゴーセンにて、排水処理施設の改修工事を行い、タンク内に溜まっていた汚泥を処分したこと、加えて改修工事期間中に発生した排水を廃棄物として処分したことが原因です。(株)ゴーセンの廃棄物処分量の増加は一過性のものであり、次年度以降は廃棄物処分量は減少する見込みです。

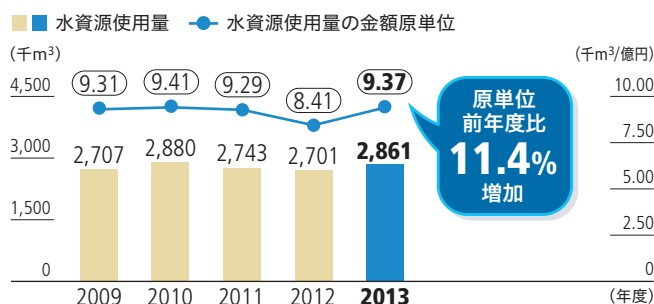
今後も廃棄物発生量を減らす取り組みを継続していきます。

物質の循環利用

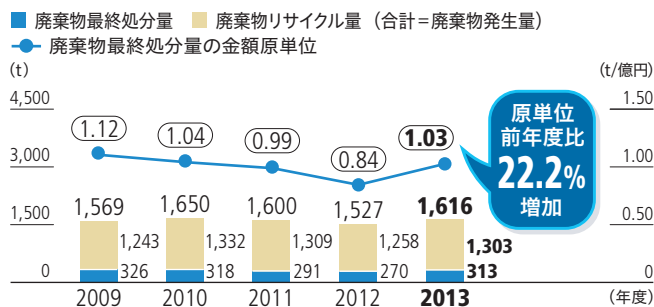
製造過程で発生する篠くずや短い毛などの副産品を、紡毛原料としてほぼ100%再利用するシステムを確立しています。

また、セーターや手編み糸などを包装する包装材の使用量は年間約4.4トンで、これら容器包装材は(公財)日本容器包装リサイクル協会に委託して、リサイクル(再商品化)しています。

● 水資源使用量と原単位



● 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量と原単位



国内製造部門での環境保全活動

化学物質の削減と管理

PRTR法※対象物質の使用量が多い薬剤から対象物質を全く含有しない物質への切り替えをほぼ終了し、さらに少量使用している物質においても、試験を進めて切り替えていきます。

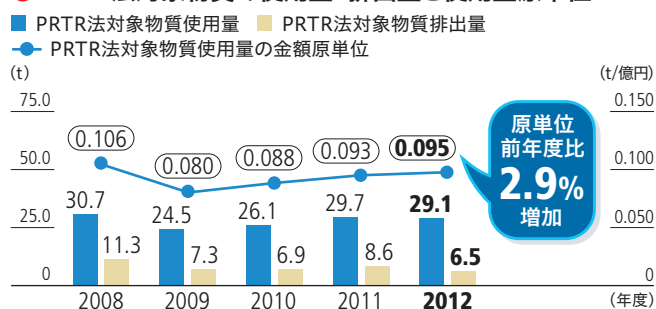
※PRTR法：特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律。

化学物質の削減と管理

PRTR法対象物質を含有する化学物質の中で、比較的使用量が多いものから優先的に、PRTR法対象物質を全く含有しないものに切り替えましたが、PRTR法対象物質の使用量原単位は、「2011年度比99.0%以下」とした目標に対して、実績は「102.9%」と目標を達成できませんでした。これはPRTR法対象物質を使用するものの生産割合が増加したことによります。

今後、PRTR法対象物質を含有する化学物質に対して、対象物質を全く含有しないものへの切り替えに向けた研究を進めていきます。

● PRTR法対象物質の使用量・排出量と使用量原単位



注) PRTR法の届け出については、事業者は個別事業所ごとに化学物質の排出量・移動量を把握し、繊維産業においては都道府県経由で経済産業省に届け出しています。その集計期間は4月から翌年3月までと定められており、上記グラフの年度も、この集計期間に準じているためニッケの報告期間とは異なります。

PCB使用廃電気機器の適正管理

ニッケグループでは、国の全額出資によって設立された特殊会社「日本環境安全事業株式会社」にグループ全体で13台のPCB使用廃電気機器を処理登録しており、現在、処理順番を待っている状況です。処理が実施されるまでは「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に従って、適正に保管しています。

また、数mg/kg～数十mg/kgのPCBが混入した微量PCB汚染廃電気機器の問題については、製造年などから混入の可能性のある機器を特定し、絶縁油のPCB分析により汚染の有無を確認する作業を行っています。汚染が確認された機器は計画的に更新し、微量PCB汚染廃電気機器として適正に保管・処分します。

ダイオキシン類

ニッケグループでは、ダイオキシン類対策特別措置法で定められた特定施設は設置していません。

国内製造部門での環境保全活動

大気や水などの汚染防止

大気汚染や水質汚濁などの公害対策については、特に周辺住民の方に迷惑をかけないように、確実に公害防止設備の定期保全を実施し、排ガスや排水水質の定期分析および管理を継続しています。

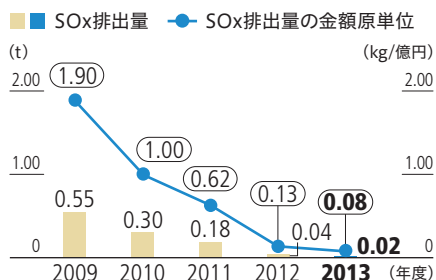
大気汚染物質の削減

ニッケグループから排出されるSOx・NOx・ばいじんはボイラの排ガスに含まれるもので、特にSOxの排出はボイラ燃料に起因します。ニッケ印南工場、一宮事業所、岐阜工場、アンビック(株)、(株)ゴーセン、尾州ウール(株)は、天然ガスなどを燃料とするボイラを使用しており、SOx排出量を

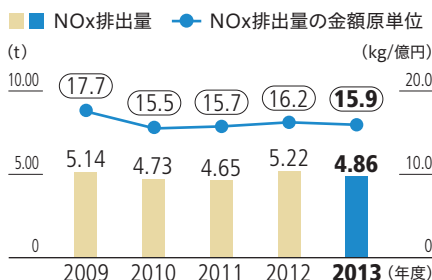
ゼロにしています。

またNOx・ばいじんは「大気汚染防止法」や関係法規、環境保全協定に基づく排出基準を十分に下まわるよう管理しています。

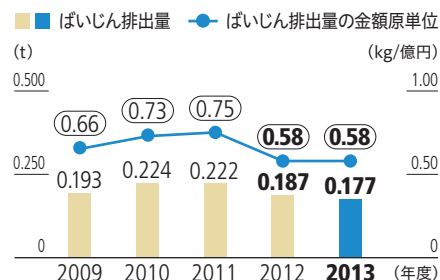
● SOx排出量と原単位



● NOx排出量と原単位



● ばいじん排出量と原単位

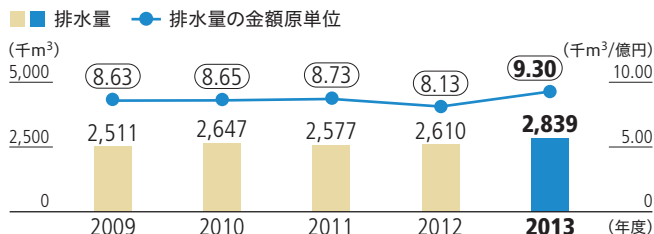


排水の管理

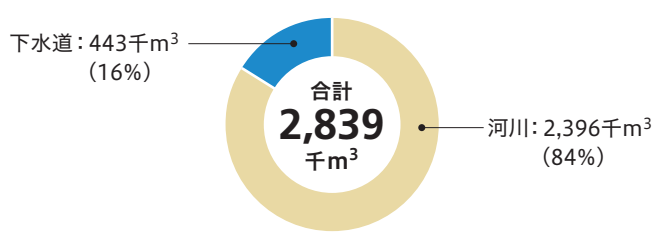
工場排水に含まれるCOD負荷・BOD負荷・SS負荷は、自社の排水処理装置または公共の下水処理場でこれら負荷量を減少させた上で、河川などの公共水域に放流しています。

各工場では定期保全の確実な実施に加え、日常的な管理運用、上乘せ排水基準の設定、排水水質の定期分析などを通じて、「水質汚濁防止法」や関係法規、環境保全協定に基づく排出基準を下まわるように管理しています。

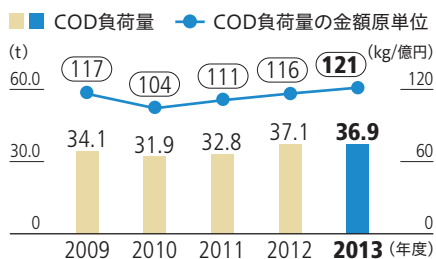
● 排水量と原単位



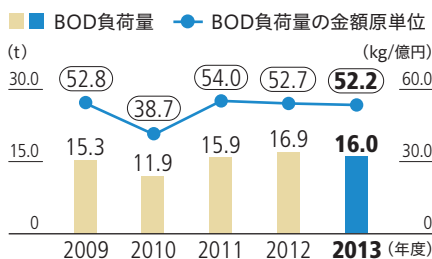
● 排水の排出先別内訳(2013年度)



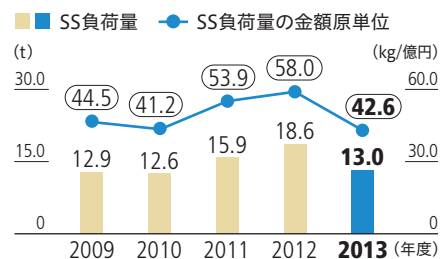
● COD負荷量と原単位



● BOD負荷量と原単位



● SS負荷量と原単位



国内製造部門での環境保全活動

環境に配慮した商品

ニッケグループは、人と地球にやさしい素材であるウールを主原料としたさまざまな商品を製造・販売するほか、環境に配慮した素材の開発、再生繊維の使用、衣料品リサイクルの推進などに取り組んでいます。

ニッケ



紡績技術の原点に立ち返り開発した 次世代ハイブリッドヤーン

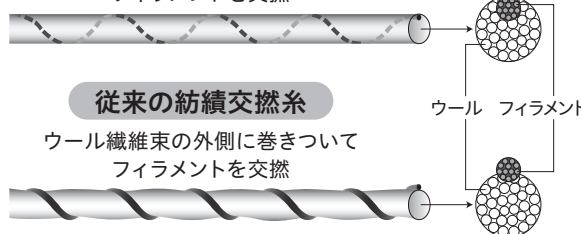
ウール繊維束の内側にフィラメントを包み込むように、しかもきれいな流れを描くように交撚した偏心らせん構造。表面はウールのソフトな風合いを最大限に活かし、細く強く快適性能を内に秘めた交撚糸を開発しました。

ニッケNagaragawaを使用した織物はその特殊な撚構造により、羊毛を改質することなく高度なウォッシュブル性を実現しており、環境にやさしい素材です。

特許出願中

ニッケの新・交撚糸

ウール繊維束の内面に包み込んで
フィラメントを交撚



従来の紡績交撚糸

ウール繊維束の外側に巻きついて
フィラメントを交撚

独自の撚構造で、
洗濯機で洗っても型くずれしにくい、
高度なウォッシュブル性を実現

ゴーセン

固定床モールコード

組紐の製造技術で排水処理能力の向上

活性汚泥などの排水処理装置は、さまざまな製造現場、設備から排出される排水を微生物の働きによって、分解処理し無害化しています。

(株)ゴーセンは培ってきた組紐の製造技術により、表面積が大きく微生物の付着しやすいループ形状のモールコードを開発、生産しています。微生物の付着媒体として排水処理装置で使用することで、処理能力を向上させることが可能です。

表面上には見えない排水処理用基材から環境を支えています。



表面積が大きいループ形状のモールコードで
微生物が付着しやすく、排水処理能力アップ

国内製造部門での環境保全活動 環境に配慮した商品

アンビック

アンビック(株)では、原料から製造、使用、廃棄に至る商品のライフサイクル全体で、環境への負荷が少なくなるよう考慮しています。新商品の開発・設計や、原材料・工程など既存品を著しく改善する際の設計段階において、ISO14001に基づいて定めた製品アセスメント規定と、

製品アセスメントチェックリストに従って、新商品・改良品の環境影響を評価しています。

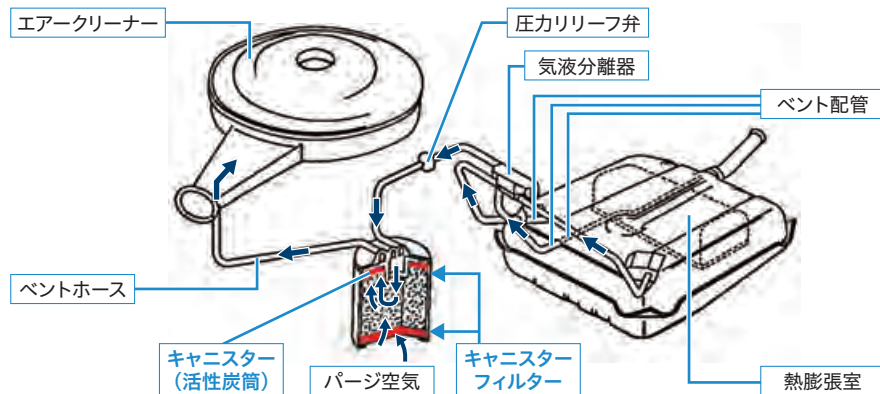
また、フェルト商品の開発・製造にあたっては、ニッケで副産物として発生する羊毛を利用しており、資源の有効利用に努めています。

自動車用キャニスター用フィルター

燃料蒸発ガス放出による大気汚染の防止に貢献

キャニスターとは、自動車の燃料タンクから、燃料蒸発ガスが大気中に放出されるのを防止する装置です。エンジンが停止しているときに蒸発した燃料ガスを活性炭に吸着させて一時貯蔵しておき、エンジン運転時に一時貯蔵した燃料ガスを吸気系に導入して燃焼させます。

アンビック(株)のキャニスターフィルターは、空気と燃料ガスの通気性を確保しながら活性炭を保持する性能を有しています。燃料蒸発ガスの放出による大気汚染の防止に役立っています。



空気清浄機用フィルター

「部屋の空気をキレイに！」健康的で快適な住空間のために

空気清浄機は、部屋の空気をファンによって吸い込み、内部のフィルターで空気中の粉じんなどを捕らえて、きれいになった空気を再び部屋に循環させる装置です。

アンビック(株)では、7.5m³/分の大風量で、花粉症や黄砂、PM2.5や浮遊しているアレルギー性の物質などの微粒子(0.1~2.5μm)を99%除去し、10年たっても集じん能力が持続する「エレクトレット高性能フィルター」を開発し、住環境の改善、廃棄フィルターの減少に貢献しています。



国内製造部門での環境保全活動 環境に配慮した商品

🏷️ 再生繊維を用いた「エコロジア企画」

ニッケと帝人(株)、日清紡績(株)(現日清紡ホールディングス(株))の3社は、共同でトライアングルプロジェクトを構築し、その企画のひとつとして、1997年に使用済みPETボトルを繊維に再生し使用する「エコロジア企画」を立ち上げました。

これは、ゴミを減らすばかりではなく、合成繊維の主原料である石油の消費抑制にも役立つ地球にやさしい環境保全活動のひとつです。ニッケグループでは、再生されたポリエステル繊維とウールを混紡し、ユニフォームなどの商品へと加工して、再び社会へ送り出しています。

● エコロジア企画の仕組み

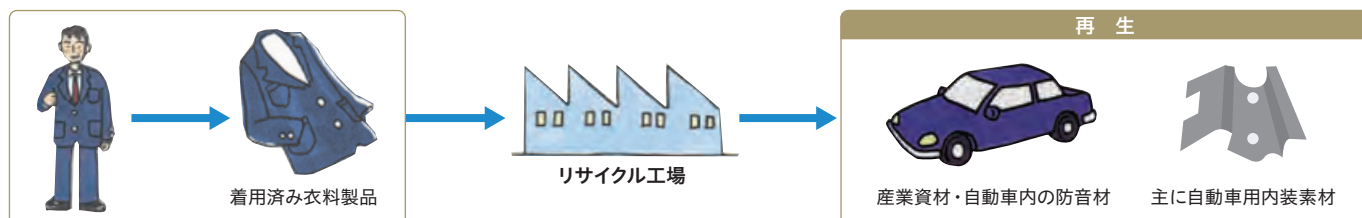


🏷️ 「エコネットワーク」製品リサイクルシステム

限りある資源を大切に使い地球環境を保全することは、現代社会を生きる私たちに課せられた義務であり責任です。繊維業界においても、商品回収・再生に向けた意識が高まってきています。

素材のリサイクルによって、地球環境への負荷を減らすため、ニッケと(株)ガイドーリミテッド、大東紡織(株)の3社は、1998年に共同でウールリサイクルシステム「エコネットワーク」を構築しました。

● エコネットワークの仕組み



国内製造部門での環境保全活動

グリーン購入の取り組み

ニッケは1998年に「グリーン購入ネットワーク」に加入し、環境負荷の少ない商品やサービスを優先して購入するグリーン購入の取り組みを促進しています。

グリーン購入の促進

グリーン購入品比率は「95.0%以上」という目標に対して「93.5%」と目標未達でした。ペーパーレス化によって適合品比率の高い事務用紙の購入量が減少したことがあげられます。

また、文具類の中には適合品が存在しないものがあります。今後、比率を上げることは難しい状況ですが、購買品・調達先を見直すことで改善していきます。

● グリーン購入品比率

	2009	2010	2011	2012	2013
紙類	95.3	98.1	95.6	95.7	90.8
文具類	65.5	71.4	75.2	73.4	70.2
機器類	98.8	98.6	99.8	96.4	99.6
OA機器	100.0	100.0	100.0	99.9	99.9
照明 照明器具	100.0	100.0	99.2	100.0	96.5
照明 蛍光灯	92.1	99.3	94.5	94.9	86.4
合計	92.5	92.8	94.2	95.0	93.5

オフィスでの取り組み

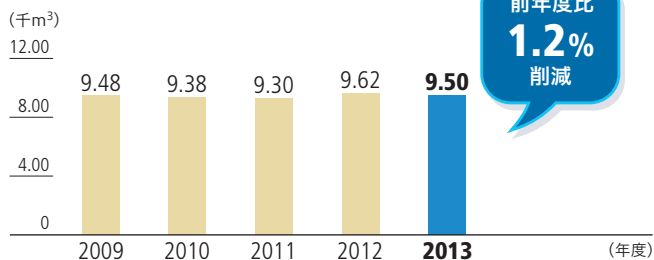
ニッケの本社、神戸本店、東京支社および北海道、仙台、名古屋、広島、九州の各営業所のオフィス部門での環境データを集計して報告しています。

オフィスにおける環境保全

空調温度の徹底管理や、こまめな消灯、エレベーター使用の削減など、社員への周知を徹底することで、電気使用量の削減に取り組んでいます。2013年度は、本社ビルの2つのフロアで空調設備を省エネ型へ更新しました。しかし、社員数が24%増加したこと、厨房機器をガス式から電気式の設備に更新したことによって、電気使用量が増加しました。

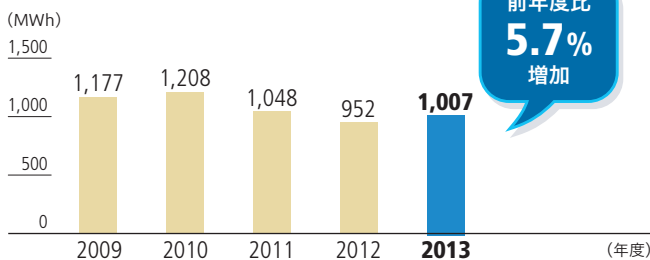
今後も計画的な空調設備の更新、省エネ対策を推進します。

● オフィスでの水道使用量

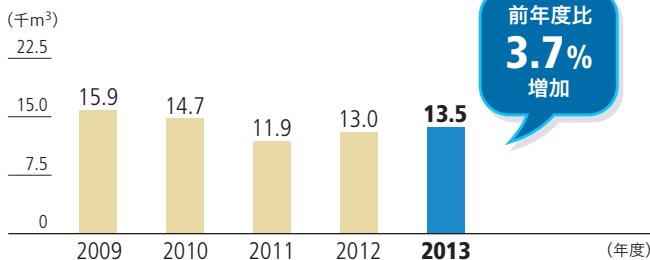


水道使用について各個人に節水をPRし、水漏れ箇所についても迅速に修理対応することで、前年度比1.2%削減することができました。

● オフィスでの電気使用量



● オフィスでのガス使用量



神戸本店の事務所エリアが拡大したことで、ガスヒートポンプでのガス使用量が増加しました。

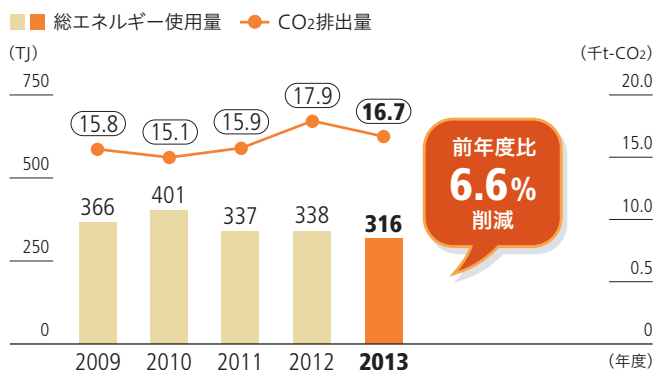
ショッピングセンター部門での環境保全活動

ショッピングセンター運営での取り組み

ニッケは国内2カ所(千葉県・兵庫県)で大規模なショッピングセンターを運営しています。環境負荷を低減するため設備を改善するとともに、地域の皆様を対象に、エコの大切さをお伝えする活動に協力しています。

ショッピングセンターでの環境保全

● ショッピングセンターでの総エネルギー使用量・CO₂排出量



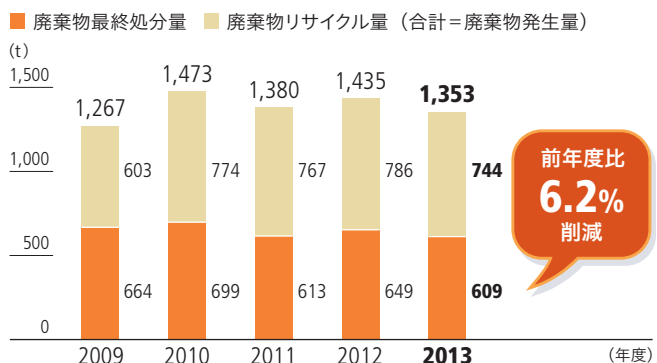
お客様が歩行する通路にドライミストを設置するほか、空調室外機への散水、空調設備(エアハンドリングユニット)のインバータ化などを行い使用電力の削減を図りました。

また、ガラス窓の緑のカーテンや屋上散水・屋上緑化などに取り組んでいます。



空調室外機への散水

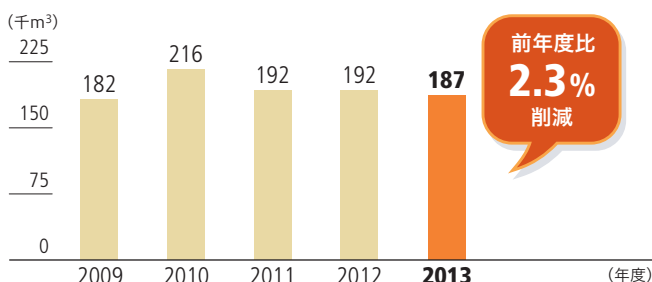
● ショッピングセンターでの廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



廃棄物の分別を徹底してリサイクル量を増やし、廃棄物処分量の減量に取り組んでいます。

剪定くずによるバイオネスト(木の葉や枝を積み重ねてつくる昆虫や小動物のすみか)づくりや落ち葉のコンポスト化(堆肥化)にも取り組み、手造りの庭で再利用しています。

● ショッピングセンターでの用水量



施設内のトイレ、洗面所には節水型の機器を導入し、水使用量の削減に努めています。

地域への情報発信・啓蒙活動

● ニッケコルトンプラザ

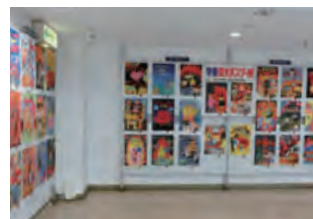
地域の皆様を対象とする、緑化や省エネなどの啓蒙活動に協力しています。ニッケコルトンプラザがある千葉縣市川市では、毎年7月7日に「クールアースいちかわ」と題して午後8:00~午後10:00にライトダウン(節電)を呼びかけています。ニッケコルトンプラザでも外部看板のライトダウンを実施しました。また、(公財)市川市花と緑のまちづくり財団が主催する楽しみながら緑化を進めることを目的とした「素敵なガーデニング講座」をコルトンホールで開催しています。



「素敵なガーデニング講座」を開催

● ニッケパークタウン

加古川市内の幼稚園や小学生が描いた環境ポスター展や、防火ポスター展を開催するにあたり、3階のギャラリーを無料で開放しています。毎回多くの地域の皆様に鑑賞していただいています。



ギャラリーでのポスター展

ニッケグループ各社の取り組み

ニッケ(日本毛織株式会社)

本社

照明の間引きや空調温度28℃の厳守、省エネ型エアコンへの更新をした結果、2010年度と比較して年間電力使用量を15.6%削減しました。

また、2013年度は新たに、ゴミ排出量削減と地球環境保護の一環として、大阪市の条例に基づいて再資源化可能な紙類を焼却場へ持ち込まないために、全館でゴミ類の分別回収の徹底を開始しました。



プラスチックゴミの分別回収

神戸本店

夏の節電対策として、照明の間引きほか、換気扇の導入による空調温度28℃を徹底することで、最大電力を抑制しました。

また、社会貢献として、エコキャップ、プルタブの回収を継続実施しています。



エコキャップ、プルタブの回収

東京支社

空調設定温度の厳守や休憩時間の消灯などの対策を実施した結果、2013年度の電力使用量は前年度比93.5%となりました。

また、事務スペースの天井エアコン5台すべてにハイブリッドファンを取り付けました。冷気の直射防止や室温むらの解消が実現できたほか、電力使用量の削減にも寄与しています。



ハイブリッドファン

北海道営業所

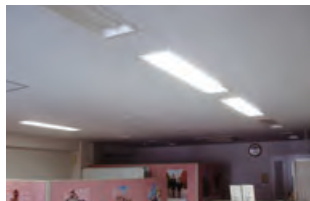
年間の室温管理の徹底と蛍光灯の間引きを実施するほか、休憩時間・業務時間外には最低限の照明でまかなうことで節電しています。

また、ビジュアルキャビネットの稼働によりペーパーレス化の推進、ゴミの分別とリサイクルにも継続して取り組んでいます。

仙台営業所

2013年度も継続して節電を中心に環境活動の推進を図りました。窓を開放して夏期のエアコンの使用を控えたほか、休憩時の照明の間引きを徹底しました。

その結果、光熱費を2012年度比で約13%削減できました。



照明の間引き

名古屋営業所

コピー用紙の再生紙使用と裏面利用に加え、保管文書の電子ファイル化によるペーパーレスに取り組まれました。

また空調温度管理や不使用時の消灯を徹底し、節電にも継続して取り組んでいます。

広島営業所

休憩時間中の消灯や空調設定温度の管理を徹底し省エネ対策を継続しています。

ゴミは、分別ボックスでの回収を徹底し、ペットボトルのエコキャップ回収も継続しています。さらにコピー用紙は再生紙を購入し、裏面利用も継続、無駄なコピーはしないようにしています。

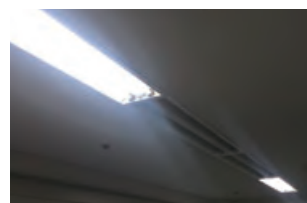


分別ボックス

九州営業所

空調設定温度の徹底管理、蛍光灯の間引き点灯、不要照明の消灯などの省エネに努めています。

また、ビジュアルキャビネットによるペーパーレスの推進、コピー用紙の裏面利用、ゴミの分別を徹底し、資源保全に努めています。



蛍光灯の間引き点灯

印南工場

【ユニフォーム素材・カーペットの製造】

ISO14001認証取得/2000年11月(登録番号 JMAQA-E156)

印南工場では夏期ピーク電力を抑制するため、生産設備の駆動装置・集塵ファン・井戸ポンプのインバータ化とエアコンの最新機種への更新など、省エネ対策を図りました。その結果、猛暑であった2010年と比較して443kW(12.8%)削減することができました。また従業員の省エネ意識を高めるため、生産部門・施設課で毎月、省エネ会議を開催し、情報共有、意見交換を図っています。



集塵ファンのインバータ化

一宮事業所

【メンズ・レディスファッション素材を中心に製造】

ISO14001認証取得/2007年12月(登録番号 JMAQA-E724)

一宮事業所の事務所と工場の中に設置してある蛍光灯の一部にプルスイッチを設置し節電の意識を全従業員にもってもらうため「1.2円」「節電」の表示をしました。

今後、設置可能な場所に表示を広げていきたいと考えています。



プルスイッチの節電表示

岐阜工場

【毛糸の製造】

ISO14001認証取得/2001年10月(登録番号 JMAQA-E234)

岐阜工場では、生産機台のエアリーク防止に工場全体で取り組んでいます。こまめなエアリーク防止を行うことにより、コンプレッサー設定圧力を前紡では0.70MPaから0.55MPaに、製糸では0.75MPaから0.73MPaに変更することができ、使用電力量の約41%を削減することができました。他の職場でもエアリーク防止を展開中です。



エアリーク防止保全

ニッケグループ各社の取り組み

ニッケ(日本毛織株式会社)

グループ会社

ニッケコルトプラザ

【ショッピングセンター】

空調機(エアハンドリングユニット:AHU)を1台更新しました。ファン効率のアップにより、電力使用量を旧空調機対比15%削減できる見込みです。

また、前年度に引き続き共用通路・店舗の照明器具を305台LED照明に更新し、消費電力の削減に取り組んでいます。



空調機の更新

ニッケパークタウン

【ショッピングセンター】

1階大型店用の空調機(エアハンドリングユニット)の送風機3台にインバータを設置しました。

周波数を40ヘルツで運転することにより年間で234,135kWの電力が削減できると予測しています。なお、これでニッケパークタウンにある全16台の送風機にインバータの設置が完了したことになります。



送風機にインバータを設置

株式会社ナカヒロ

【衣料繊維製品および繊維資材製品の販売】

ISO14001認証取得/2002年6月(登録番号 E465)

本社機能がニッケ大阪ビルに移転したことに伴って、「地球環境委員会」に新たに参画して、資源化可能(リサイクル)な紙の分別やゴミの廃棄方法の徹底に取り組んでいます。

また、全社でのエコキャップ回収運動も継続して取り組んでいます。

アカツキ商事株式会社

【衣料繊維製品の販売】

ISO14001認証取得/2001年9月(登録番号 JSAE419)

2013年度は環境マネジメントシステムの更新年にあたり、8月に第4回登録更新が承認されました。

主な活動としましては、7月に本社ビルの6階の自動販売機1台を、ピークシフト機能付きのものに変更しました。日中は電力を消費しないので消費電力は10%以上の削減になります。

また、1階の商品開発部に企画用コピー機とFAX機を別々に設置していましたが、4月にエコタイプの複合機へと更新しました。

2014年度はペーパーレス化を課題とし、8月からモバイルの導入により、さらなるペーパーレス化の促進を図っています。



節電機能付き自動販売機

佐藤産業株式会社

【衣料繊維製品の製造・販売】

ISO14001認証取得/2001年11月(登録番号 JEO129E)

2013年度は、本社ビルの8階、9階の事務所照明にLEDを導入して消費電力削減に取り組みました。

ISO14001は3年更新の認証を受け、新たな目標で、節電やゴミの削減、CO₂削減に向けて全員で取り組んでいます。



LED照明の導入

南海毛糸紡績株式会社

【梳毛糸、合繊糸、ウールトップの加工・販売】

2013年度は社員各人それぞれのエコ意識を高めあう事務所を目指しました。日々の取り組みとして、社内用コピー用紙の裏面利用を徹底しました。昼食時間の部分消灯、トイレの不使用时の消灯も常態化してきました。

また、冷暖房の電力省力化を図るためクールビズ・ウォームビズを奨励しました。

保存資料のペーパーレス化はできるところから進めており、今後はさらに取り組みを進めていきます。

注) 南海毛糸紡績株式会社は2013年12月に南海ニッケヤーン株式会社と社名変更しました。



コピー用紙の裏面利用

大成毛織株式会社

【織物の製造】

2012年秋のニッケ一宮事業所内への移転に伴い、大成毛織はISO14001認証を取得している事業所の関連会社として登録されています。2013年8月に実施されたISO14001の外部更新審査を機に、全社員に「環境方針が記載されたカード」を配布し、「個人の環境目標」を記入してもらい環境意識を高めました。

また、2013年7月に新工場の屋上に太陽光パネルを設置しました。パネル合計枚数は1,690枚、トータル発電能力は439kWになります。発電の状況がリアルタイムで見える掲示板を利用して工場を見学される方々にもPRしています。



発電状況がわかるパネル

株式会社中日毛織

【織物の製造】

2013年春のニッケ一宮事業所内への移転に伴い、中日毛織はISO14001認証を取得している事業所の関連会社として登録されています。2013年8月に実施されたISO14001の外部更新審査を機に、全社員に「環境方針が記載されたカード」を配布し、「個人の環境目標」を記入してもらい環境意識を高めました。

移転を機に、社有車を5台から3台に減らして、ガソリン使用量を半減させました。



社有車を減らしてガソリン使用量削減

ニッケグループ各社の取り組み グループ会社

尾州ワール株式会社

【毛糸の製造】

2013年度は中部電気保安協会の指導を得て、木曾川工場にデマンド制御装置を取り付けました。結果、最大電力は前年の397kWに対して本年は320kWを下まわり、電力原単位も前年度比8.9%削減と大きな成果を得ることができました。



デマンド制御装置

金屋ニット株式会社

【ニット製品の製造・販売】

2012年度に引き続き、事務所と工場内の不要時消灯の徹底や空調温度の管理など、主に電力の削減に取り組みました。

また、製造工程で排出される裁断くずの再生利用のほか、コピー用紙の裏面利用、使用済み封筒・用紙の使い廻しなど環境保全に取り組みました。

株式会社キューテック

【織物製品の縫製加工】

前年度に引き続き工場内の不要照明の消灯と空調温度管理、コピー用紙の裏面利用に努めました。

また、発生した不要な段ボールケースはリサイクル業者に委託して資源保全と廃棄物削減に努めています。

さらに、ベトナム人実習生9名が、寄宿舎がある町内会の年2回の一斉清掃に参加しています。

艶金化学繊維株式会社

【染色整理加工】

超極細繊維生地、割織・染色一体加工技術の開発を行うにあたり、染色機メーカーやファイバーメーカーのアドバイスを受けて省エネルギータイプのオリジナル染色試作機を導入しました。助剤・蒸気・電気・水を削減できる処方を開発しました。



省エネルギータイプの染色試作機

青島日毛織物有限公司(QNF)

【織物の製造加工】

会社の西側と南側の一部に塀をつくり、隣接会社との境界を明確にして、環境安全を確保しました。

また、織絨課の作業場の蛍光灯を試験も兼ねて段階的にLED照明に変更中です。



塀を設置し環境安全確保

江陰日毛紡績有限公司(JNS) 江陰日毛印染有限公司(JND)

【毛糸の製造・販売】
【色トップの製造】

日本ではPM2.5に代表される中国の大気汚染が話題となっていますが、水質汚染も深刻な状況にあり、工場から汚水処理場への排水水質基準は、2012年まではCOD500ppm以下でしたが、2013年1月1日より国家基準がCOD200ppm以下に引き下げられました。

当社では、2012年より工場内に汚水処理設備の建設をはじめ、2013年9月からCODが50~150ppmとなるよう、運用を開始しています。

また当社のある地域では国家基準の適応を要請されていませんが、今後とも地球環境、省エネに配慮しながら中国での生産活動を継続していきます。



汚水処理設備を稼働

ニッケ・ポートフィリップ・スカーリング社(NPS)

【原料加工】

羊毛洗毛工程で羊毛から除去された土砂・植物質(Soil)を、オーストラリアの農場に還元しています。農場では、Soilを利用して作物に適した土壌づくりをしており、小麦・キャノーラの栽培、養羊が行われています。右の写真は、Soilを利用した農場で春に開花したキャノーラ栽培の様子です。



Soilを農場の土壌づくりに活用

日毛(上海)管理有限公司(SNM)

【中国グループ会社向けのコンサルタント業務、資金融資、新規事業開発支援】

2013年度も、会議資料のペーパーレス化、コピー用紙の裏面利用、使用可能な備品の再利用などにより、資源保護に取り組みました。

また、事務所・会議室の禁煙を継続実施するとともに、PM2.5による大気汚染やインフルエンザ対策として、有効な空気清浄機を設置し、社員の健康管理に役立てています。

南海ニッケ・マレーシア社(NNM)

【毛糸の製造】

Oeko-Tex Standard 100認証取得/2010年4月(登録番号 KLYO 068111)

コピー用紙の裏面利用、エアコン温度設定の徹底、不要照明の消灯について継続して実施しています。

今後、マレーシアでも導入されつつある蛍光灯のLED化を進める計画です。その他、工場全体の美化運動にも取り組んでいます。

南海ニッケ・トレンガヌ社(NNT)

【ウールトップの製造】

NNTではトップ生産量600t/月を目標に態勢を整えています。2013年度はこれまでの廃液処理能力を向上させるため、生物処理設備を導入しました。

目標生産を達成させるため社員一同、一丸となって、ニッケグループ唯一のトップ製造工場として生産性の向上対策を継続していきます。



廃液を処理する生物処理設備

ニッケグループ各社の取り組み グループ会社

株式会社ニッケ機械製作所

【機械設計・製造・販売】

ISO14001認証取得/2004年11月(登録番号 1664297)

2013年8月に印南工場内の新工場に移転しました。

工場棟は5棟あったものを1棟に集約し、断熱性能も向上させました。エアコンは効率の高い最新型を設置しました。また、LED照明の採用や、屋根面で採光した太陽光を室内での照明に活用するスカイライチューブの取り付けなどを実施しました。その結果、電気使用量を11%削減することができ、環境負荷を大幅に低減することができました。



新工場

アンビック株式会社

【繊維資材製品の製造・販売】

ISO14001認証取得/2001年11月(登録番号 JQA-EM1898)

アンビック(株)では、楽器、手芸などに使用される濃色フェルトを生産しています。

濃色フェルトの染色条件を見直すことにより、濃色フェルト染色時の水使用量を5%削減することができました。

日本フェルト工業株式会社

【繊維資材製品の加工】

工場内の蛍光灯照明のLED化に取り組んでいます。手始めに工場内の樹脂加工・プレスの各工程作業場の蛍光灯照明(グロー型/ラピッド型)から、直管型のLEDランプ40型8本、110型10本に変更しました。

変更後の照度は樹脂加工工程で220ルクスから500ルクスに、プレス工程で230ルクスから360ルクスとなり、職場環境の大幅な照度改善と省電力、CO₂排出量の削減に取り組むことができました。

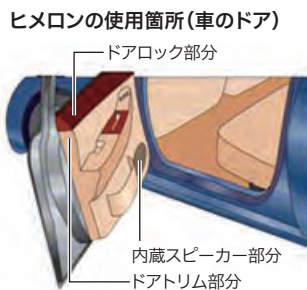
江陰安碧克特種紡織品有限公司(JAF)【繊維資材製品の製造加工】

ハンマーフェルトの手直し反数を15.7%削減した結果、水使用量が前年度比65.6%と大幅に削減することができました。

安碧克(香港)有限公司(HAM)

【繊維資材製品の販売】

アンビック(株)製造の不織布「ヒメロン」の中国での販促・販売活動を継続しています。「ヒメロン」はノンハロゲン・ノンホルマリンで、電機電子機器のRoHS指令や自動車業界のVOC規制にも適合した、環境にやさしい商品です。



安碧克(上海)貿易有限公司

【繊維資材製品の販売】

ばいじん濃度の軽減を目的に、中国現地製造の不織布(フィルターバッグ)を中国国内で販売しました。

ばいじん濃度が30mg以下になることを保証して、石炭火力発電所向けにPPS(ポリフェニレンサルファイド)素材のフィルターバッグや、セメント工場向けを中心としたメタアラミドバッグを納入し、中国国内の環境保全に貢献しています。

株式会社ゴーセン【テニス・バドミントンラケット、釣糸、産業資材の製造・販売】

ISO14001認証取得/2005年4月(登録番号 JQA-EM4701)

2013年度に立ち上げた省エネ委員会が中心となって省エネ対策を検討・実施しています。

2013年度の取り組みとしては、各工場にデマンド監視警報パトライトを設置しました。ピーク電力に近づくとライトが点灯し警報の見える化を図ることによってピーク電力を抑えることが可能になりました。デマンドパトライトを設置



ホクレン株式会社

【繊維資材の染色加工】

東日本大震災を機に実施している節電を継続しています。

書類のペーパーレス化を推進し、裏面利用や不使用紙の有効利用によって紙の使用量の削減を継続実施しています。

2013年度は、製品の再加工率が減少し、エネルギーコストの低減に寄与しました。

また、排水処理水の分析を年3回実施し、異常の有無を確認しています。繊維くずについては、リサイクル業者に委託し、資源保全と廃棄物削減活動を続けています。さらに、工場内外清掃と年2回の工業団地の一斉清掃に、継続して参加・実施しています。

上海高織制紐有限公司

【繊維資材製品の製造】

ISO14001認証取得/2004年3月(登録番号 01 104 031654)

事務所内にてコピー用紙の裏面利用、メールの有効活用などにより、紙の使用量の削減に取り組んでいます。

また工場内でも段ボールの再利用、休憩中の消灯など、社内全体で環境保全に取り組んでいます。

ゴーセントアイランド社

【自動車用繊維資材の販売】

ゴーセントアイランド社は、ニッケタイランド社との共同事務所とし、それぞれ省エネやゴミ削減に取り組んでいます。

主な省エネ活動としては、照明の配線を変更し不要照明を消灯するほか、昼食時間の消灯や空調オフを徹底しています。また、コピー用紙の裏面利用などに努め、生産品の紙管を再利用するとともに、通箱を採用して配送パッキンなどゴミの削減に取り組んでいます。



通箱を使用

ニッケグループ各社の取り組み グループ会社

ニッケ不動産株式会社 【住宅などの建設・販売、不動産管理事業】

2012年度より実施しているプルスイッチによる不要時消灯を推進しました。

今後も休日出勤・残業の軽減に努め節電を心がけます。また本店事務所内のLED照明化も検討しています。



プルスイッチによる不要時消灯

株式会社ニッケレジャーサービス 【ゴルフ施設運営・管理】

2012年度に引き続き、クールビズ・ウォームビズを実施しました。

また、施設内の電球もLED電球へ交換しています。乾電池は充電式のものを使用し、インクカートリッジはリサイクル品を使用しています。

さらに、使用済みの携帯電話を30台ほど、リサイクル品として寄付しました。



LED電球に交換

株式会社ニッケインドアテニス 【テニス施設運営・管理】

電気の使用状況をリアルタイムで確認できる「使用電力監視システム」を稼働させてから5年余りが経過しました。

スタッフの省エネ志向もすっきり定着し、消費電力は稼働前に比べて安定的に減少しています。



使用電力監視システム

株式会社ニッケ・ケアサービス 【介護事業】

介護付有料老人ホーム「ニッケあすも一宮」では、社員のエレベーター使用を控えました。

また、終業時には従業員のトイレのコンセントを抜くなどして節電に努めました。



終業時にコンセントを抜いて節電

ニッケ商事株式会社 【毛布・寝装用品の製造・販売、手編み・スーツの販売】

待機電力の抑制、不要箇所の消灯、エアコンの温度設定の管理などによる省エネルギーに努めました。

また、資源化可能な紙の分別、一部プリンターの環境共生トナーの使用、スーツ販売における不要な衣類の下取りなどによるリサイクル活動に取り組みました。

双洋貿易株式会社 【馬具・乗馬用品の製造・販売】

引き続き夏期のスーパークールビズの実施、エアコンの温度設定の管理、不要な照明の消灯など、節電に努めています。また、社内資料に使用済み用紙の裏面利用、社内便に使用済み封筒の再利用、ゴミの分別ルール遵守といった取り組みも継続して実施しています。

さらに、社用車3台は、ハイブリッド車2台とエコカー1台とし環境にも配慮しています。

株式会社ニッケ物流 【倉庫管理・運送】

2013年8月よりグリーン・エコプロジェクトに取り組んでいます。

エコドライブを推進し、CO₂排出量の削減および燃費向上に伴うコスト削減や事故防止などに向けた管理者・ドライバー一人ひとりの環境意識を向上させることを目的としています。2013年度で、杉の木21本分の植樹に相当するCO₂排出量を削減することができました。

株式会社友栄 【100円ショップ向け卸売】

事務所内の室温管理を徹底し蛍光灯の本数を最小限にして、消費電力の削減に努めています。

コピー用紙の裏面利用とトナーカートリッジのリサイクル品の使用を実施しています。

また、商用車1台をエコカーに変更しました。

株式会社ジーシーシー 【携帯電話販売】

あびこ店のメイン看板である駐車場ポール看板をLEDに更新しました。節電に加えて、明るくなったことで訴求力の向上にもなりました。



看板をLEDに更新

ニッケアウデオSAD株式会社 【菓子小売・キッズランド・TSUTAYA】

全事業部でエアコン温度管理の徹底や蛍光灯の間引き、またサーティワンアイス事業部では冷凍庫配置の見直しにより節電を実施しました。TSUTAYA事業部では、引き続きLED照明の導入を進めました。

毎月、全店舗に店舗別の電力使用状況をメールすることにより、スタッフに対して節電の意識を高めています。

株式会社ニッケ・アミューズメント 【飲食・カラオケ施設運営・管理】

ランチ営業終了からディナー営業開始までの節電、また店舗改装時に電球をLEDに変更することによる省電力化を実施しました。

今後はよりペーパーレス化を目指し、資源を有効活用していきたいと考えています。

株式会社ツキネコ 【スタンプ台等の企画・開発・製造・販売】

夏期には、スプリンクラーによる屋根散水を行いました。タイマー式水道栓を利用し1時間おきの散水で工場内の冷房効率を高めました。また、室外機にも適時散水を行い、電気デマンド値を抑えました。

その他、蛍光灯の間引きを行い、不要箇所を消灯しました。キュービクル式高圧受電設備の最大使用電力・使用量を月次で統計・掲示し、社員の節電への関心を高めました。スプリンクラーで散水



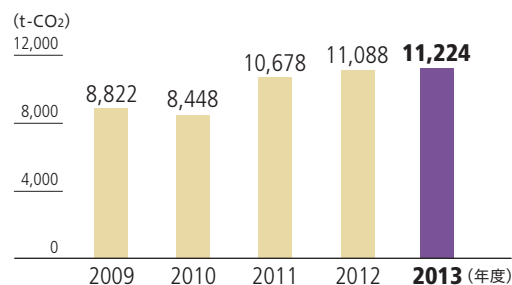
サイト別パフォーマンスデータ

印南工場

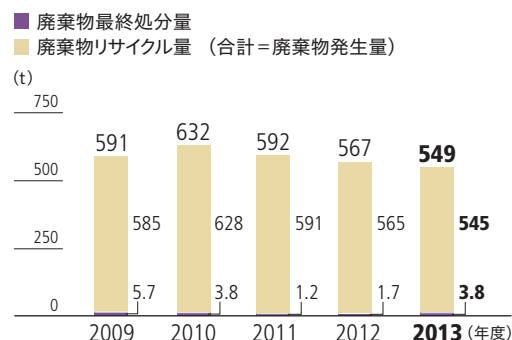
● サイト別パフォーマンスデータ

		2010	2011	2012	2013	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	8,448	10,678	11,088	11,224	101%	
	電気使用量(MWh)	10,195	10,477	10,632	10,057	95%	
	A重油使用量(kL)	—	—	—	—	—	
	都市ガス使用量(千m ³)	2,408	2,721	2,565	2,762	108%	
	プロパンガス使用量(t)	—	—	—	—	—	
	ブタンガス使用量(千m ³)	—	—	—	—	—	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	632	592	567	549	97%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	628	591	565	545	96%	
	廃棄物 最終処分量(t)	3.8	1.2	1.7	3.8	222%	
水	水資源使用量(千m ³)	1,209	1,047	1,110	1,418	128%	
	排水量(千m ³)	1,270	1,179	1,196	1,574	132%	
	排水負荷量	COD(t)	11.5	11.2	14.2	13.7	96%
		BOD(t)	4.62	4.35	5.68	6.89	121%
		SS(t)	3.77	3.91	5.84	4.74	81%
大気	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—	—	
	NO _x 排出量(t)	2.18	2.42	2.98	2.45	82%	
	ばいじん排出量(t)	0.031	0.041	0.038	0.038	100%	

● CO₂排出量



● 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量

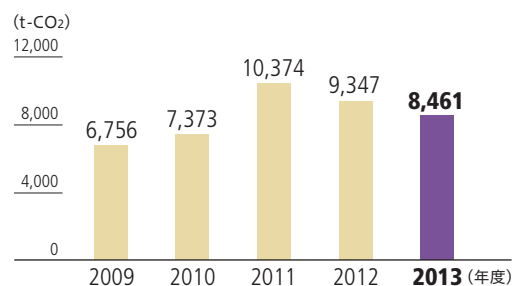


一宮事業所

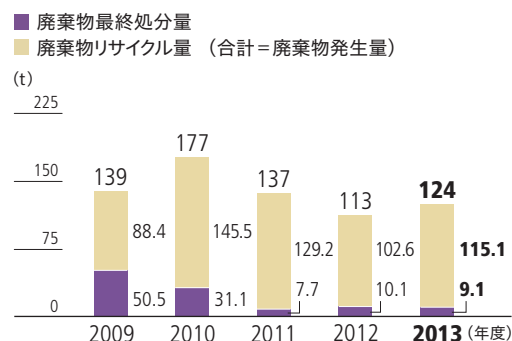
● サイト別パフォーマンスデータ

		2010	2011	2012	2013	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	7,373	10,374	9,347	8,461	91%	
	電気使用量(MWh)	8,376	12,087	10,168	8,808	87%	
	A重油使用量(kL)	—	—	—	—	—	
	都市ガス使用量(千m ³)	1,689	2,037	2,030	1,939	96%	
	プロパンガス使用量(t)	—	—	—	—	—	
	ブタンガス使用量(千m ³)	—	—	—	—	—	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	177	137	113	124	110%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	145.5	129.2	102.6	115.1	112%	
	廃棄物 最終処分量(t)	31.1	7.7	10.1	9.1	90%	
水	水資源使用量(千m ³)	434	551	502	471	94%	
	排水量(千m ³)	355	359	395	387	98%	
	排水負荷量	COD(t)	8.3	7.6	9.1	10.5	116%
		BOD(t)	1.09	1.21	1.26	1.41	112%
		SS(t)	0.416	0.380	0.420	0.640	152%
大気	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—	—	
	NO _x 排出量(t)	1.16	1.14	1.10	1.21	110%	
	ばいじん排出量(t)	0.147	0.131	0.122	0.115	94%	

● CO₂排出量



● 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



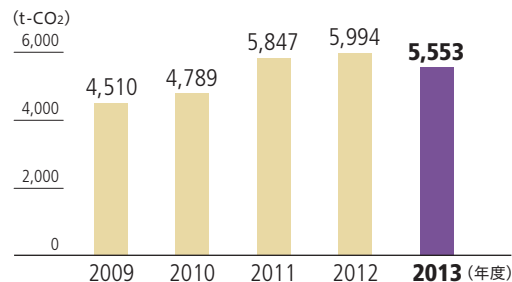
サイト別パフォーマンスデータ

岐阜工場

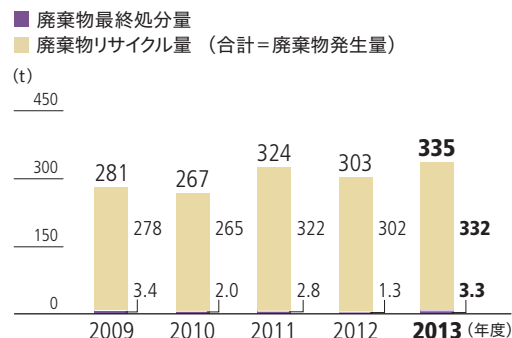
● サイト別パフォーマンスデータ

		2010	2011	2012	2013	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	4,789	5,847	5,994	5,553	93%	
	電気使用量(MWh)	8,118	9,236	9,304	8,687	93%	
	A重油使用量(kL)	—	—	—	—	—	
	都市ガス使用量(千m ³)	423	474	540	483	114%	
	プロパンガス使用量(t)	1.211	1.030	1.000	0.750	75%	
	ブタンガス使用量(千m ³)	13.0	14.7	14.4	13.5	94%	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	267	324	303	335	111%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	265	322	302	332	110%	
	廃棄物 最終処分量(t)	2.0	2.8	1.3	3.3	245%	
水	水資源使用量(千m ³)	848	909	881	788	89%	
	排水量(千m ³)	833	891	866	751	87%	
	排水負荷量	COD(t)	8.8	11.8	10.5	9.9	94%
		BOD(t)	5.9	10.2	9.8	7.5	77%
		SS(t)	7.58	11.49	12.31	7.55	61%
大気	SO _x 排出量(t)	—	—	—	—	—	
	NO _x 排出量(t)	0.121	0.132	0.245	0.226	92%	
	ばいじん排出量(t)	0.0067	0.0055	0.0096	0.0075	78%	

● CO₂排出量



● 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量

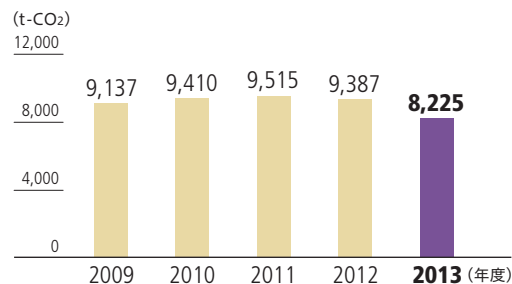


報告対象グループ会社^{※1}

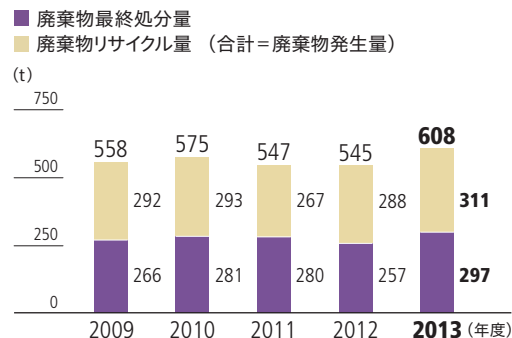
● サイト別パフォーマンスデータ

		2010	2011	2012	2013	前年度比	
エネルギーとCO ₂	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	9,410	9,515	9,387	8,225	88%	
	電気使用量(MWh)	12,831	11,270	11,057	9,287	84%	
	A重油使用量(kL)	118	140	62	47	75%	
	都市ガス使用量(千m ³)	1,934	1,717	1,561	1,464	94%	
	プロパンガス使用量(t)	1.48	1.37	73.68 ^{※2}	78.17	106%	
	ブタンガス使用量(千m ³)	—	—	—	—	—	
廃棄物	廃棄物 発生量(t)	575	547	545	608	112%	
	廃棄物 リサイクル量(t)	293	267	288	311	108%	
	廃棄物 最終処分量(t)	281	280	257	297	116%	
水	水資源使用量(千m ³)	390	236	209	184	88%	
	排水量(千m ³)	190	148	153	127	83%	
	排水負荷量	COD(t)	3.27	2.13	3.26	2.88	88%
		BOD(t)	0.225	0.147	0.198	0.140	71%
		SS(t)	0.83	0.12	0.07	0.07	104%
大気	SO _x 排出量(t)	0.30	0.18	0.04	0.02	60%	
	NO _x 排出量(t)	1.26	0.95	0.89	0.97	109%	
	ばいじん排出量(t)	0.0398	0.0443	0.0177	0.0167	94%	

● CO₂排出量



● 廃棄物発生量・リサイクル量・最終処分量



※1 報告対象グループ会社: 尾州ウール(株)、大成毛織(株)、金屋ニット(株)、アンビック(株)、(株)ゴーセンの国内グループ会社5社。

※2 (株)ゴーセンがボイラ燃料を重油からプロパンガスに転換したため。

環境報告ガイドライン対照表

● 環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)との対照表

項目	環境データ集 2014 該当ページ
1. 環境報告の基本的事項	
1. 報告にあたっての基本的要件	
(1) 報告対象組織の範囲・対象期間	P.1
(2) 対象範囲の補足率と対象期間の差異	P.1
(3) 報告方針	P.1
(4) 公表媒体の方針等	P.1
2. 経営責任者の緒言	P.2
3. 環境報告の概要	
(1) 環境配慮経営等の概要	会社案内に掲載
(2) KPIの時系列一覧	P.8
(3) 個別の環境課題に関する対応総括	P.7
4. マテリアルバランス	P.8
2. 環境マネジメント等の環境配慮経営に関する状況	
1. 環境配慮の方針、ビジョン及び事業戦略等	
(1) 環境配慮の方針	P.4
(2) 重要な課題、ビジョン及び事業戦略等	P.4
2. 組織体制及びガバナンスの状況	
(1) 環境配慮経営の組織体制等	P.4
(2) 環境リスクマネジメント体制	P.5
(3) 環境に関する規制等の遵守状況	P.6
3. ステークホルダーへの対応の状況	
(1) ステークホルダーへの対応	P.6
(2) 環境に関する社会貢献活動等	P.6、P.18-22
4. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況	
(1) バリューチェーンにおける環境配慮の取組方針、戦略等	—
(2) グリーン購入・調達	P.16
(3) 環境負荷低減に資する製品・サービス等	P.13-15
(4) 環境関連の新技术・研究開発	P.13-15
(5) 環境に配慮した輸送	P.9
(6) 環境に配慮した資源・不動産開発／投資等	P.6
(7) 環境に配慮した廃棄物処理／リサイクル	P.15

項目	環境データ集 2014 該当ページ
3. 事業活動に伴う環境負荷及び環境配慮等の取組に関する状況	
1. 資源・エネルギーの投入状況	
(1) 総エネルギー投入量及びその低減対策	P.8、P.9
(2) 総物質投入量及びその低減対策	P.8、P.10
(3) 水資源投入量及びその低減対策	P.8、P.10
2. 資源等の循環的利用の状況(事業エリア内)	P.8、P.10
3. 生産物・環境負荷の産出・排出等の状況	
(1) 総製品生産量又は総商品販売量等	P.8
(2) 温室効果ガスの排出量及びその低減対策	P.8、P.9
(3) 総排水量及びその低減対策	P.8、P.12
(4) 大気汚染、生活環境に係る負荷量及びその低減対策	P.8、P.12
(5) 化学物質の排出量、移動量及びその低減対策	P.8、P.11
(6) 廃棄物等総排出量、廃棄物最終処分量及びその低減対策	P.8、P.10
(7) 有害物質等の漏出量及びその防止対策	P.5、P.11
4. 生物多様性の保全と生物資源の持続可能な利用の状況	P.6
4. 環境配慮経営の経済・社会的側面に関する状況	
1. 環境配慮経営の経済的側面に関する状況	
(1) 事業者における経済的側面の状況	P.5
(2) 社会における経済的側面の状況	—
2. 環境配慮経営の社会的側面に関する状況	
(組織統治等)	会社案内に掲載
(人権)	—
(労働慣行)	—
(消費者保護・製品安全)	—
(地域・社会)	会社案内に掲載
(その他)	—
5. その他の記載事項等	
1. 後発事象等	
(1) 後発事象	—
(2) 臨時的事象	—
2. 環境情報の第三者審査等	—

表紙イラスト

「ニッケ ピュアハート イラスト大賞」第7回(2013年)

次代を担う子どもたちを応援する文化支援事業として、「ニッケ ピュアハート イラスト大賞」を実施しています。「スタンプインクを使う」という今までにないテーマで募集し、素晴らしい作品が多数寄せられました。

大賞

① 藤城 真生さん(小学生・千葉県)

優秀賞

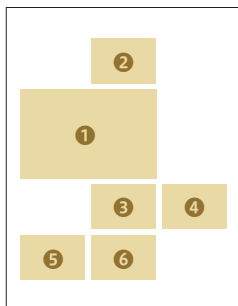
② 立花 佑夏さん(小学生未満・千葉県)

③ 白井 理穂さん(中学生以上・兵庫県)

④ 酒井 優実さん(中学生以上・大阪府)

⑤ 吉川 咲希さん(小学生・大阪府)

⑥ 高橋 裕子さん(中学生以上・兵庫県)



〒541-0048 大阪市中央区瓦町3丁目3番10号
Tel.06-6205-6600 Fax.06-6205-6684

<http://www.nikke.co.jp>

ニッケグループ「環境データ集2014」アンケートシート

皆様のご意見、ご感想をお聞かせください

ニッケ 研究開発センター 環境・知財管理室 宛 **FAX. 079-431-2070**

「環境データ集2014」をお読みいただきありがとうございました。ニッケグループでは、環境保全に積極的に取り組むとともに、皆様方とのコミュニケーションをより一層深めながら、環境報告を継続的に改善し、充実させていきたいと考えております。お手数ですが、アンケートにご記入の上、上記の宛先までFAXでご送付くださいますようお願いいたします。

Q1▶ 本データ集をお読みいただき、どのようにお感じになりましたか？

- | | | | | | |
|---------------|-----------------------------------|---------------------------------|-----------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1) わかりやすさについて | <input type="checkbox"/> 大変わかりやすい | <input type="checkbox"/> わかりやすい | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> わかりにくい | <input type="checkbox"/> 大変わかりにくい |
| 2) 内容について | <input type="checkbox"/> 大変充実している | <input type="checkbox"/> 充実している | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 物足りない | <input type="checkbox"/> 大変物足りない |
| 3) 情報量について | <input type="checkbox"/> 多すぎる | <input type="checkbox"/> 多い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 少ない | <input type="checkbox"/> 少なすぎる |
| 4) デザインについて | <input type="checkbox"/> 大変良い | <input type="checkbox"/> 良い | <input type="checkbox"/> 普通 | <input type="checkbox"/> 悪い | <input type="checkbox"/> 大変悪い |

Q2▶ 特に興味を持たれた項目は何でしょうか？(複数回答可)

- | | | |
|--|--|--|
| <input type="checkbox"/> トップメッセージ(P.2) | <input type="checkbox"/> 特集:「ニッケまちなか発電所明石土山」が稼働(P.3) | <input type="checkbox"/> 環境に関する基本姿勢(P.4) |
| <input type="checkbox"/> 環境マネジメント(P.4-6) | <input type="checkbox"/> 環境保全中期計画(P.7) | <input type="checkbox"/> 環境負荷の全体像(P.8) |
| <input type="checkbox"/> 地球温暖化防止の取り組み(P.9) | <input type="checkbox"/> 省資源・リサイクルの取り組み(P.10) | <input type="checkbox"/> 化学物質の削減と管理(P.11) |
| <input type="checkbox"/> 大気や水などの汚染防止(P.12) | <input type="checkbox"/> 環境に配慮した商品(P.13-15) | <input type="checkbox"/> グリーン購入の取り組み(P.16) |
| <input type="checkbox"/> オフィスでの取り組み(P.16) | <input type="checkbox"/> ショッピングセンター運営での取り組み(P.17) | <input type="checkbox"/> ニッケグループ各社の取り組み(P.18-22) |
| <input type="checkbox"/> サイト別パフォーマンスデータ(P.23-24) | | |

Q3▶ 本データ集でお知りになった環境保全活動に対して、どのように評価されましたか？

- 大変評価できる 評価できる 普通 評価できない 全く評価できない

Q4▶ 本データ集で不足している点や改善すべき点がございましたらお聞かせください。

Q5▶ 今後のニッケグループの取り組みについて、ご意見や期待される点をお聞かせください。

Q6▶ 本データ集をどのような立場でお読みになりましたか？

- お客様 お取引関係者 投資家・株主 政府・行政関係 研究・教育関係 環境NPO・NGO 報道関係
 企業・団体の環境ご担当 学生 ニッケグループ従業員・家族 その他()

ご協力ありがとうございました。差し支えない範囲で、以下にもご記入ください。

お名前(ふりがな)	性別 男 ・ 女	年齢 歳
ご住所(お勤め先またはご自宅) 〒	ご所属(お勤め先・学校名など)	
ご連絡先(電話番号、FAX番号、E-mailアドレスなど)	所属部署・役職など	

■情報の取り扱いについて

アンケート内容は、今後の当社グループの環境への取り組みや、次回のデータ集作成の参考とさせていただきます。ご記入いただいたアンケート内容および個人情報 は適切に管理し、この目的以外の利用や第三者への提供はいたしません。また、個人を特定できる形で開示することもございません。